



小木曾 健 Ogiso Ken

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 客員研究員

講演やメディア出演を通じ、ネットで絶対に失敗しない方法を伝えている。全国の企業・学校などで2,000回以上の講演。著書に『ネットで勝つ情報リテラシー』（筑摩書房、2019年）ほか多数

フェイクニュース(2) —対処法—

前は、フェイクニュース急増の理由と、私たちがなぜフェイクに騙されてしまうのか、そのカラクリについてお伝えしました。

今回はフェイクニュースが社会にもたらす深刻な影響と、私たちがそれにどう立ち向かえばよいのかを考えます。

動画を作るのは大変

フェイクニュースを急増させることとなったX(旧Twitter)の報酬プログラムですが、実はそのずっと前から、同じように「閲覧数で稼げる仕組み」がYouTubeで実施されています。動画で広告収入を得る、皆さんよくご存知のユーチューバーと呼ばれる人たちです。

仕組みは同じですから、YouTubeでもこれまで多くのフェイクが投稿され、拡散されてきました。ですが、今のXほど状況は酷くなかった——なぜなら動画を撮影・編集するのはすごく大変だからです。

よく「10分の動画を作るには100分以上の時間がかかる」と言われますが、実際ちゃんと観てもらえるレベルの動画を作るには、もっともっと時間がかかります。とにかく大変な作業なんです。

一方で、Xなら文字と写真だけでフェイクを作れる。断然効率がよい。フェイクで手っ取り早く稼ぎたい人たちがXを選ぶのも当然でしょう。今やXがフェイクニュースの主戦場といえます。

ところが未だに、あえて手間のかかる動画でフェイクを作っている人たちがいます。ここ最近増えている「選挙動画インフルエンサー」たちです。

文字は読みたくない

近年、選挙をネタにした動画を作り、その閲覧数で報酬を得るビジネスが活発化しています。投稿される動画の大半は「意外な真実」「逆張り」「陰謀論」……ろくな根拠も示さず、ただ感情をあおるだけ。拡散さえすればOKという動画がほとんどです（もちろん一部にはまともな動画もあります）。

例えば、「世間からバッシングされているあの候補、実は〇〇業界の利権を暴いてしまい、報復されているのだ」とか「あの候補は裏で〇〇国とつながっている」とか、もう説明するのもバカらしい、根拠もない、実にくだらない内容なんです。が、今やネットは、選挙の度にそんな動画があふれ返り、何十万回と再生されるようになりました。なぜ彼らはわざわざ手間のかかる動画でフェイクを作るのか。

実は、ニュース記事程度の文章でも「文字が多い、読みたくない」という層が、一定数いらっしゃるんですね。ただ、そういった方々もなぜか動画なら見てくれる。だから動画で作るんです。なるべく幅広く拡散させたいですからね。

前回の記事では「フェイクには『誰かに教えた』『許せない』『意外だ』と思わせ、拡散させる仕組みが組み込まれている」とお伝えしましたが、選挙中に拡散したデマ動画を見ると、いずれも見事にこれらの条件を満たしており、どれもすごい勢いで拡散していました。

深刻な問題に

選挙デマの問題は、それがフェイクだと明らかになったときには、すでに選挙が終わっているという点。後から「実はウソでした」と判明しても、フェイクをもとに判断、投票した1票は変えられません。これは民主主義の根幹を揺るがす深刻な問題です。

同時に、この問題は「海外から日本の選挙に介入できる」ことも意味します。「どこかの国」が日本の選挙を混乱させることもできるということ。特に国政選挙への介入は安全保障に関わる重大なリスクと言えるでしょう。

実際、直近の選挙でも、AIで自動化された大量の海外アカウントが日本人になりすまし、社会を分断しそうな投稿をバズらせたり、自らフェイクを作成してバラ撒いた形跡が確認されています。「なぜこんなくだらないネタが拡散しているんだ？」という疑問の背景には、そんな動きが見え隠れしていたのです。

エコーチェンバー

前回の記事では、フェイク情報が強化されてしまう「フィルターバブル」という現象を紹介しましたが、実はSNSにはもう1つ、情報の偏り（かたよ）を引き起こす「エコーチェンバー」と呼ばれる現象があります。

SNSなどで同じような考え、感性、意見を持つ人達が引き寄せあい、集まってしまう現象を指すのですが、そもそも人間は自分と同じ考え、同じ主張をする人を好みますからね、ネット検索で得る情報も、フォローする相手も、自然と自分の考えに近いモノ、近い人になります。

そんな似たような思考集団の中では、たとえ偏った情報であっても「これが主流」「これが標準」と思い込んでしまい、そこから抜け出せなくなってしまうのです。これがエコーチェンバー。

恐ろしいことに、フェイクを製造・拡散させる連中は、日頃からそういった集団を把握、フォローしており、ここぞという時に、その集団にハマりそうなフェイクを放り込めます。

「保留力」を身に付けよう

ここまで読んでいただければ、フェイクニュースを見破ろうとする試みがいかに困難なことかお分かりいただけたと思います。

そもそも人間はウソに弱く、ネットやSNSにはフェイクを加速させる仕組みがあり、また生成AIの普及でフェイクを見破るコツも使えなく

なった。もはや、私たちがフェイクニュースと戦う術はないのでしょうか……いえ、大丈夫です。

よく講演先で「フェイクニュースの見破り方を教えてほしい」と聞かれるのですが、まずその発想を捨てましょう。フェイクニュースは、日々あらゆる分野で生み出されます。それらを見破ろうとしたら、理屈上、地球のあらゆる分野の専門家になる必要があります。無論そんな超人はいません。つまり、すべてのフェイクを見破るなんて不可能なのです。

まずは「自分は騙されるかもしれない」という覚悟を持ってください。これは決してフェイクとの戦いを放棄するという意味ではありません。ファクトチェックをやめましょうという意味でもありません。ただ単に「急いで判断しないで」というだけの話。

目の前の情報に対し、なぜ急いでシロクロつけようとするのか。そんな義務はありませんよね。そんなこと誰も求めています。慌てて判断するから騙される。フェイクを作る連中はそのへんをよく分かっているから、フェイクに「急いで判断、拡散したくなる要素」を必ず組み込めます。

2～3日で構いません。「いったん判断を保留しよう」と手を止めてください。拡散させたい気持ちをごっところえ、いったん保留。私はこれを「保留力」と呼んでいます。2～3日もすれば、その分野に詳しい人たちが議論して、もしそれがフェイクならちゃんと指摘してくれます。

フェイクニュースを作る連中のねらいは「拡散」です。逆に言えば拡散しないフェイクは無効なのです。私たち皆が「保留力」で対抗すればフェイクを無効化できます。誰もが堂々と「判断できないのでちょっと待ちます」と言ってよいのです。ぜひお試しを！

まとめると……「騙されるかも」の覚悟を決めて「人に教えたい！これは許せない」と感じた情報には警戒、ぐっところえて2～3日待つ。これは私たちが今日から始められる、フェイクニュースとの戦い方です。